

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月16日

【評価実施概要】

事業所番号	2 7 9 5 2 0 0 0 1 9		
法人名	医療法人明生会		
事業所名	グループホーム片町苑		
所在地	大阪市都島区片町2丁目9番25号 電話 06-6357-5793		
評価機関名	特定非営利活動法人エイジコンサーン・ジャパン		
所在地	大阪市住之江区南港北2-1-10ATCビルITM棟9階		
訪問調査日	2009年 10月 23日	評価確定日	2009年 12月 28日

【情報提供票より】(2009年9月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 7 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 17人	

(2) 建物概要

建物構造	耐火建造物	造り
	10階建ての	2～3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	45,000 円	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(350,000円)	有りの場合 償却の有無	有3年償却 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	800 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	6名	要介護4	5名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	72歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人明生会病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR環状線京橋駅下車7分、京阪京橋駅下車5分という繁華街の中にあるといえる。経営母体は医療法人明生会である。1階がデイケア、2階・3階がグループホーム、4階から10階が高齢者賃貸マンションとなっている。昨年5月開所し、同法人の介護老人保健施設桜の宮苑からの入居者で定員いっぱい18名でスタートした。介護職員は老健認知症担当などからの異動で、グループホームへ環境の変化にも混乱が少なく移動ができた。とは言え、グループホームとしてゆったりとした時間のなかでの生活支援ホームとして軌道に乗り出したところである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価である。職員は外部評価を今後のホームの介護サービスの質の向上に活かしたいとの意気込みを感じた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は主に管理者と介護計画作成担当者で作成。外部評価を義務的、形式的に受けることなく、自己評価票作成段階から、現場職員も一緒に作成に携わり、日常的な日々の作業を見つめなおす機会と捉えられた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は定期的には開かれていない。地域柄自治会員は殆ど商店主であり、平日の会議の参加が困難であり、商売が終わった夜になる。家族、行政の参加を考えると、日時の調整は難しい。地域密着施設としての施設の役割を理解してもらい、事務局の力も得ながら、何とか地域の代表者の参加を得られるよう努力されたい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の苦情の受付の体制は出来ている。家族は職員が忙しいのではと気にしつつ、辛抱しているところも見受けられる。職員が夜一人ということは、介護度が高い入居者が増えてきていることから、如何にすべきか、また、職員は昼休みを取る時間が無いとのことである。今後、経営体の検討課題として捉えられたい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の方とは交流は出来ている、だんじりをホームの前で引き回してくられたり、近所の幼稚園に出かけたりもしている。日常的交流まで出来ていない。ホーム内で認知症の講習会を開くことで、更なる地域との交流の機会とされたい。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	日々安心して生活が出来、暖かい環境作りを目指している。今の力を持続し、持てる力を最大限に発揮できるように支援する。一人ひとりの力を大切に「気づく」介護に努める。入居者の個性を大切に支援する。地域の一員として信頼される施設を目指している。		経営体で作った理念があり、其れを唱和しているとのことであるが、片町苑独自の理念を簡潔な文で表すことを、試みられたい。職員自らで作ること身近な理念となり、職員の理解も深まると考える。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営方針、事業者理念の共有を図る為に各フロアに提示している。		提示しているというだけで職員の意識に深く入っているかとは別である。グループホームの入居者に対し如何に支援していくか、職員の意識の共有のためにも、来訪者にも片町苑の姿勢が分かる理念を作成・掲示されたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお店で買い物をしたり、散髪屋、弁当店の配達も利用している。夏祭りの参加でつきあいが出来るように努めている。		近隣のお店で、入居者が買い物をしたり、ホームの食材を買うなどで、ホームも地域の一員との認識を持っている。更なる交流を深めるために地域に還元できることは何か、例えば認知症対応講習会を開催するなど、こちらから働きかけられたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価機関から提示される内容を素に業務改善に努めたい。		今回が開所して初めての外部評価である。外部評価を日常のサービスに生かしたい、との職員の真摯な態度は、片町苑の今後の発展に資するものと思われる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の場で活動内容を報告している。自治会長や地域の方も参加している。火災等の避難場所等の情報をも貰っている。</p>		<p>運営推進会議は開かれているが、まだ2ヶ月に1回というペースには至っていない。地域は商店が多く、会議の日時の決定に苦難されている。経営体の事務局の協力も得て、何とか地域代表、行政、家族、の参加が得られ、ホーム管理者・職員・経営体代表なども参加して、円滑な開催を期待する。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事務員が法人内の他の施設の問題もあって、区担当者と日常的に情報交換を行っている。必要時には区役所職員が来てくれることもある。</p>		<p>地域密着施設として地域の行政との連絡を密にされている。今後とも継続されたい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に1回のお便りで、写真付で暮らしぶりを担当職員が、体調は看護師が報告している。金銭管理は請求書、領収書、預かり金の内訳をお便りと一緒に送付している。入居者の状況が急ぐときには、電話で相談・報告・連絡している。</p>		<p>印刷物でホーム全体のお知らせが出され、個人へのお知らせとして手書きのものもある。入居者それぞれに手書きの報告は負担に感じるかもしれないが、入居者の様子を思い浮かべて書くことが、入居者の様子を深く見つめることにつながる。家族から見ると、入居者個々の報告が一番知りたいものと思う、今後とも継続されたい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見に耳を傾けるように支援している。意見箱に投書して頂く事で外部へ現せるように対応している。</p>		<p>各ユニットに意見箱は設置してある。どんな意見でも職員ミーティングで話し合い、記録を取り、その対応の記録も取られることを続けられたい。行政の苦情窓口の電話番号の掲示をされたい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開所から1年半現在、同法人内に移動が1名、退職者が1名であるが、ダメージが起きないように配置調整等で配慮をした。</p>		<p>経営体の人事管理としてある程度の人事異動は致し方ないと思う。今後とも計画的な人事管理を経営体に願う。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加し、内部研修を開催することで、これから職員の質を向上を目指している。また研修内容を職員内で共有していく。		職員の質を向上させるため、職場内で研修参加者に対し勤務調整を含めて支援体制を取られている。また外部研修については勤務扱いであり評価できる。研修内容の共有でそれぞれの職員の向上を期待する。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへ見学に行くこと、また他のグループホームから来てもらい、交流の機会を設けている。グループホームネットワークに入会し情報収集や交流を深めていく予定である。		他ホームを知ることにより見えてくることも多くあると思われる。またグループホーム協会にも入会の予定とのこと、視野を広げ、入居者にとり、快適で安心あるホームとなることを期待する。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には職員が家庭訪問し、本人の不安や家族の不安を取り除くように工夫している。		住まいの移動で起こる混乱を最小限にとどめるため、引き続き細心の気配りを期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ベランダにて植木や野菜を職員と一緒にしているおり、自信の回復や自立支援につながる対応に努めている。		意欲の減退をくい止めるための方策は、入居者それぞれの違いもあり簡単なことではないが、生活歴の把握などから得意な分野を聞いてみたり、自信を取り戻す支援を期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	一人ひとりのおもいや生活暦の把握に努め検討している。		一人ひとりの把握に努めているが、それほど簡単ではないと考える。何とか現場職員の経験と、優しい気持ちで、介護サービスの質の向上をされたい。その上で個々人の残された能力の維持と、思いの表出が出来る支援をお願いする。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	本人や家族、職員の意見を取り入れ介護計画を作成している。		介護計画の見直しは定期的には3ヶ月ごとに、医師、看護師、介護職、家族との会議で決定されているが、漫然と見直すのではなく、どこが達成でき、どこが出来ていないかを見極めて、きめ細かい介護計画づくりをお願いする。
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	見直しが必要時には見直し、緊急時には担当者会議を通じて作成している。		緊急事態発生時にも《項目15》と同じことが言える、ただ介護計画が適切だったかなども併せて検討されたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	体調不良時に病院の受診に一緒に行けない利用者に対して職員がデイの送迎車を利用し受診している。		経営体が運営する老健、高齢者賃貸住宅の入居者と経営体の行事、地域の行事にも参加されている。協力医療機関受診については送迎してもらえることはありがたいことである、更に継続されたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	明生病院が救急対応しているので、かかりつけ医を移行される入居者もいるが、家族の希望で他の医療機関を受診している入居者も多い。ホームとしては入居者家族の意向に沿っている。		病院に付き添う場合は付き添い料は発生していない。ただ一人付き添うことで職員が手薄になることが、現場介護者の一番の気がかりである。入居者の高齢化、認知症の進行に伴い、現場介護者の配置増を、経営体として検討されることを期待する。
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化による対応の指針を説明し、その都度話し合い、また、家族にアンケートを行って、方針を共有している。		重要事項説明書には利用者の意思、もしくは家族の意向を得ることを条件に明生会病院で看取となっているが、その後、重度化した場合における対応に係る指針がつけられた。指針に「グループホームにおいて看取り介護を希望されるご利用者ならびに、ご家族の支援を最後の時点まで継続することが基本です。」(抜粋)となっている点は、入居者及び家族としては安心である。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	一人ひとりを人生の先輩として尊重することで親しみやすさの中にも丁寧に接しています。		職員が、入居者を年長者として尊敬していると、態度にも表れると考える。是非、高齢入居者自身が、今現在が一番心が安らげていると、思われる毎日を送ってもらえるような、支援を期待する。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを把握し、本人の希望に添えるように支援している。		職員はできる限り入居者の希望に添えるべく、日々対応されているが、介護度の高い入居者が多いユニットでは規定通りの職員数では対応しきれないところがある。《項目18》にもあるように、病院の付き添い、体調が悪い入居者が出ると、全員の希望に添いかねる時もある。経営体に実情の理解とご賢察を期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は夜勤の職員が調理、昼食は1階のデイサービスと同じ調理済みの食材取り入れ、盛り付けのみをしている。夕食は、近くの店に職員と利用者と一緒に買い物に行ったり、調理を一緒にしたり、後付けも手伝ってもらっている。		食事は楽しみの一つである。午後の時間を使って一緒に作りながら食べることの出来る行事などを取り入れて、楽しい食事時間の創出を期待する。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人の個浴であり、時間、回数も希望がかなうように支援している。お風呂の湯も一人ひとり替えている。		個浴が無理な入居者にはデイサービスの機械浴を利用している。入浴時間は、午後であるが、普段入浴を好まない入居者のために午前入浴にも対応されている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の持っている力を活かし調理、後片付け、洗濯物整理など役割を持ってもらっている。		デイサービスの文化教室を利用していた入居者もおられたが、現在は特に趣味を生かした活動は出来ていない。入居者もだんだん出来ることが少なくなりつつあるが、何とか持てる能力持続の努力を継続されたい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常生活訓練や気分転換のために、買い物で外出できるように支援している。		ホームに閉じこもらない支援ということで、近くに買い物、少し離れた公園には出かけるようにしている。少し遠出の遠足もしているとのことではあるが回数は少ない。入居者の介護度が進んでいる現状では、人手の面で難しいとのことである。まず外出の計画を立てて、介護職員数についても経営体に提案することを検討されたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	表玄関前が道路に面している為、安全面に配慮してスリーキーで施錠している。家族に説明、了解は貰っている。外出の希望があれば、出来る限り一緒に外出するように支援している。		ホームを出た前の道路は交通量も多く、一般的に玄関の施錠はやむ終えないと考えがちである。その場合基本的権利である利用者の自由を束縛することになるので、利用者が外に出たい場合、スタッフが同行して自由に外出できることが望ましい。理念として本来自由に玄関を出入りするのが基本であることを介護者として心に留めるべきである。ユニット間の移動は自由である。(電話で確認：介護士が必ず

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に2回の消防署の避難訓練を入居者、日勤帯、夜勤帯を想定し行っている。又地域の避難場所の情報を貰っている。		緊急事態発生時の連絡網は作成し、マニュアルは避難誘導方法を決めて作成されている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は記録は取っている。、摂取量の少ないときは栄養補助剤、アルカリイオン飲料水で対応している。、献立は職員で考え、昼食は栄養士、朝、夕食は栄養士に相談している。		一日の献立は朝・昼・夕と別々に管理されている。一日の栄養摂取量、栄養バランスを確認するためにも、日ごとの或いは1週間の献立を作成する必要がある。また入居者にはその日の献立表を分かりやすく表現しリビングに貼り出すことで、入居者の食べることへの関心が高まるのではと考える。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアごとにテーブル、ソファ、テレビを配置しベランダにはベンチ、テーブル、植木などを植えてます。		各ユニットは広々として居間空間も程よい装飾がされている。都会の真ん中であり、窓の外は隣のビルがあったりしているが、ホームの内部はゆったりしている。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には入居前から使用していた家具やなじみの物を持参してもらうように入居前に説明しています。		居室は個々の思い出のものを持ち込んでいる。家族から名前の違うものが引き出しに入っているとの声があった、細かい配慮を望まれる。

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。